

# THANKS

BUSINESS NEWS LETTER

(VOL. 177)

発行日：平成24年3月1日  
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング  
連絡先：〒359-1118  
埼玉県所沢市けやき台 1-41-11  
TEL:04-2922-1417  
E-MAIL：[info@thanksmind.co.jp](mailto:info@thanksmind.co.jp)  
<http://www.thanksmind.co.jp>

## 特集

### 「日本一わかりやすい会計の基本⑥ ～数字を対策に結びつけるための「比較評価」

今、本誌では「日本一わかりやすい会計の基本」というテーマで特集しています。  
今回もその続きです。

#### ● もし家計が赤字だったら？

いきなりですが・・・

**「最近、ずっと家計が赤字だから、来月からあなたの小遣いを減らすからね！」**

もし、奥さんから、このように言われたらどうしますか？

**「お前の交際費の方が問題だろ！」**と思いつつも、反論ができない・・・  
それでは、ゴルフの誘いを断り、仕事帰りは立ち飲みでガマンするか・・・  
それもちょっと悔しいです。

**「何を減らすかの前に、まずは、何にいくらかかっているのかを確認しようよ！」**

賢いあなたな、まずは、「家計簿」をつけることを提案するでしょう。

(単位：千円)

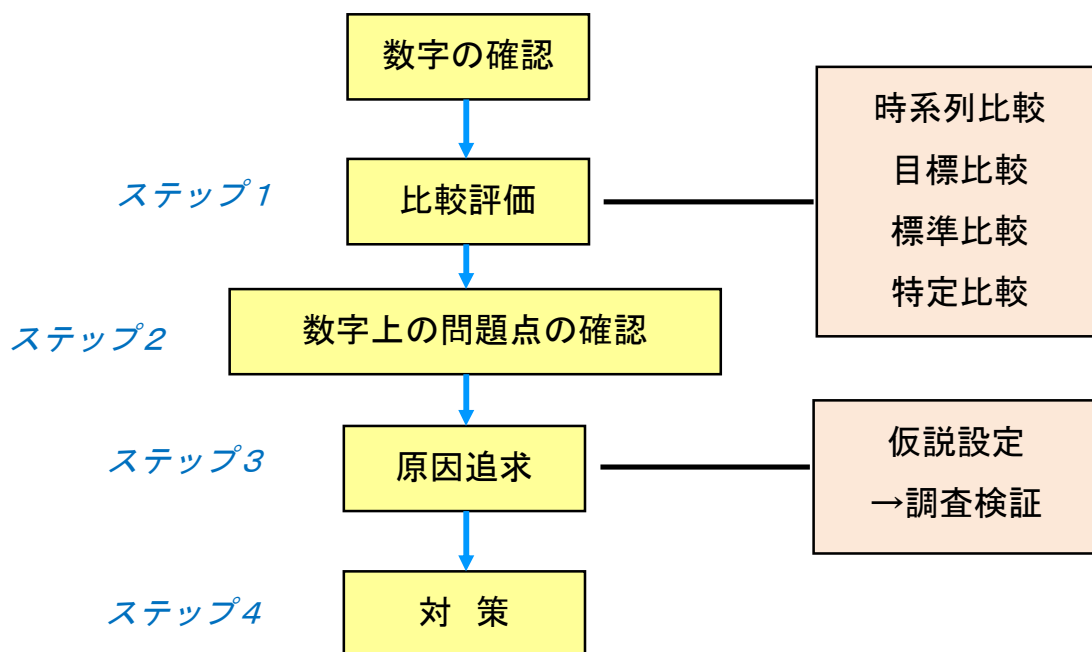
収 入	夫の収入	260
	妻の収入(パート)	50
	合計	310
費 用	家賃	80
	食費	40
	水道光熱費	20
	家庭用品費	5
	被服費	30
	保険医療費	15
	通信費	15
	教育費(塾など)	20
	娯楽費	30
	交際費	30
	小遣い	25
	その他	10
	合計	320
利 益	合計	-10

さて、その結果、今月の家計は上記の通りになりました。  
 やはり、1万円の赤字です。  
 確かに、奥さんが言うとおりの「小遣い」を1万5千円に減額すれば、なんとか収支はトントンになります。  
 しかし、本当にそれが妥当な方法でしょうか？

「ん～～、2万5千円だって、そんなに高くないはずなのに・・・」  
 そう思いながらも、反論するための「根拠」がありません。

単に「数字」を確認するだけでは、「何をしたらいいか」という対策にはつながりません。  
 それでは、どうしたら、正しい「対策」を考えることができるのでしょうか？

● どのように「数字」を「対策」にどうやって結びつけるか？



「数字」を「対策」に結び付けるための基本的な手順は上記の通りです。  
 「数字」は、単なるスタートに過ぎません。

ステップ1：比較評価

単に数字を確認しても、以前と比べて、「良くなっているのか／悪くなっているのか」、そもそも「良いのか／悪いのか」は分かりません。  
 そうした判断をするためには、いろいろな角度から「比較評価」することが必要です。  
 比較の角度としては、以下の4つです。

## ① 時系列比較

どこに問題があるのか？

まずは、昨年の数字と比較してみましょう。

(単位：千円)

		今年		昨年		差異	
収 入	夫の収入	260		250		10	
	妻の収入 (パート)	50		50		0	
	合計	310	100%	300	100%	10	0%
費 用	家賃	80	26%	80	27%	0	-1%
	食費	40	13%	35	12%	5	1%
	水道光熱費	20	6%	20	7%	0	0%
	家庭用品費	5	2%	5	2%	0	0%
	被服費	30	10%	20	7%	10	3%
	保険医療費	15	5%	15	5%	0	0%
	通信費	15	5%	15	5%	0	0%
	教育費 (塾など)	20	6%	15	5%	5	1%
	娯楽費	30	10%	30	10%	0	0%
	交際費	30	10%	20	7%	10	3%
	小遣い	25	8%	25	8%	0	0%
	その他	10	3%	10	3%	0	0%
	合計	320	103%	290	97%	30	7%
利 益	合計	-10	-3%	10	3%	-20	-7%

収入に関しては1万円多くなっているのに、どうして赤字になってしまったのでしょうか？  
 昨年と比較して増えてしまったのは、「食費」「被服費」「教育費」「交際費」の4項目です。  
 特に「被服費」と「交際費」は1万円ずつ増加しています。

**「昨年から変わっていない『小遣い』を減らす前に、まずは、支出が増えてしまったものに着目しよう！」**

奥さんに対して、このような言葉をかけましょう。

ただし、この段階で「被服費と交際費を減らすべき！」という決めつけはいけません。

あくまでも「着目点」です。

## ② 目標比較 (予算比較)

昨年と比較することも大事ですが、当然、状況は年々変わります。

例えば、子供が成長するにつれて、食費も教育費も増加するでしょう。

そうしたことを加味して、年初に目標 (計画) を立てました。

その結果が以下の通りだったとします。

(単位：千円)

		今年		目標 (計画)		差異	
収 入	夫の収入	260		280		-20	
	妻の収入 (パート)	50		50		0	
	合計	310	100%	330	100%	-20	0%
費 用	家賃	80	26%	80	24%	0	2%
	食費	40	13%	40	12%	0	1%
	水道光熱費	20	6%	25	8%	-5	-1%
	家庭用品費	5	2%	5	2%	0	0%
	被服費	30	10%	25	8%	5	2%
	保険医療費	15	5%	15	5%	0	0%
	通信費	15	5%	20	6%	-5	-1%
	教育費 (塾など)	20	6%	20	6%	0	0%
	娯楽費	30	10%	25	8%	5	2%
	交際費	30	10%	20	6%	10	4%
	小遣い	25	8%	25	8%	0	0%
	その他	10	3%	10	3%	0	0%
	合計	320	103%	310	94%	10	9%
利 益	合計	-10	-3%	20	6%	-30	-9%

食費と教育費の増分は、想定通り。

一番、大きな見込み違いは「夫の収入」です。

28万円を見込んでいたのに、結果は26万円。

「もっと残業代が入ると思っていたのに、会社が残業規制を始めてしまって・・・」

そんな言い訳をしても、奥さんはなかなか納得してくれないでしょう。

「あんたの収入が2万円も少なかったんだから、小遣いを減らすのは当たり前でしょ」

「・・・・・・・・」

ん～～、かなり厳しい展開ですね。

### ③ 標準比較（平均比較）

「時系列比較」は自分の過去の数字との比較、「目標比較」は自分が立てた目標との比較。もちろん、こうした比較は大事ですが、他のお宅の家計はどうなっているのでしょうか？ そうした比較をしなければ、そもそも、余計なお金を使いすぎているのかどうか判断できません。日本における夫婦と子供一人の標準家庭の家計が以下の通りだとします。

(単位：千円)

		今年		標準値		差異	
収 入	夫の収入	260		260		0	
	妻の収入（パート）	50		30		20	
	合計	310	100%	290	100%	20	0%
費 用	家賃	80	26%	60	21%	20	5%
	食費	40	13%	30	10%	10	3%
	水道光熱費	20	6%	10	3%	10	3%
	家庭用品費	5	2%	5	2%	0	0%
	被服費	30	10%	20	7%	10	3%
	保険医療費	15	5%	20	7%	-5	-2%
	通信費	15	5%	20	7%	-5	-2%
	教育費（塾など）	20	6%	15	5%	5	1%
	娯楽費	30	10%	25	9%	5	1%
	交際費	30	10%	20	7%	10	3%
	小遣い	25	8%	35	12%	-10	-4%
その他	10	3%	20	7%	-10	-4%	
	合計	320	103%	280	97%	40	7%
利 益	合計	-10	-3%	10	3%	-20	-7%

収入については、妻の収入まで含めれば、標準値よりは上まわっています。

また、小遣いはむしろ、標準値よりも1万円も少ないです。

それなのに、なぜ、利益で2万円もの差があるのでしょうか？

一番大きな要因は家賃です。

標準値との2万円の差が、そのまま収入の差を埋めてしまっています。

その他、食費等も合わせて、総費用が4万円多くかかっています。

さて、どうしましょうか？

「安いところに引っ越そう！」

さすがに、そう結論づけるのは乱暴でしょう。

#### ④ 特定比較（ライバル比較）

「日本における夫婦と子供一人の標準家庭」との比較も大事ですが、実際には住んでいる場所も違えば、子供の年齢も違うでしょう。そういう諸々の家庭を合わせた標準値や平均値と比較するよりも、自分の家庭に近いお宅との比較の方が分かりやすいですね。

例えば、自分と同じ市に住んでいて、子供の年齢も同程度の家庭の家計が以下の通りだとします。収入はちょうど同程度。家賃はむしろ、我が家の方が安いです。小遣いだって変わらない。使いすぎているのは、やはり「被服費」と「交際費」。

やはり、ここに注目することは、妥当なようです。

(単位：千円)

		今年		標準値		差異	
収入	夫の収入	260		260		0	
	妻の収入（パート）	50		50		0	
	合計	310	100%	310	100%	0	0%
費用	家賃	80	26%	90	29%	-10	-3%
	食費	40	13%	40	13%	0	0%
	水道光熱費	20	6%	20	6%	0	0%
	家庭用品費	5	2%	5	2%	0	0%
	被服費	30	10%	20	6%	10	3%
	保険医療費	15	5%	20	6%	-5	-2%
	通信費	15	5%	15	5%	0	0%
	教育費（塾など）	20	6%	20	6%	0	0%
	娯楽費	30	10%	25	8%	5	2%
	交際費	30	10%	20	6%	10	3%
	小遣い	25	8%	25	8%	0	0%
その他	10	3%	10	3%	0	0%	
	合計	320	103%	310	100%	10	3%
利益	合計	-10	-3%	0	0%	-10	-3%

#### ステップ2：数字上の問題点の確認

ステップ1の比較から総合的に見て「問題点」を見つけます。「問題点」とは、別の言い方をすれば、「改善したいと思う点」のこと。

例えば・・・

- ・時系列比較で、昨年と比べて大きく減ってしまった収入や、増えてしまった費用。
- ・目標比較で、大きく乖離してしまった収入や費用。
- ・標準比較や特定比較で、他の家庭と大きな差がある収入や費用。

まずは、こうした項目に着目します。

ただし、全てが「問題」かということはありません。

問題とは、上述の通り「改善したい（あるいは、できそう）」と思うものですので、例えば、全国平均と比べて高い家賃や、会社の方針で予定と違った「残業代」等は、問題から除外することが妥当でしょう。

ということで、事例の家計簿で言えば、どうやら「被服費」と「交際費」が問題のようです。それでは、具体的にどのような対策を講じて家計を黒字にしたらいいのでしょうか？

続きは次回。

<次号に続く>